



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月11日

上場取引所 東

上場会社名 神姫バス株式会社
 コード番号 9083 URL <http://www.shinkibus.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 企画部長
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 長尾 真
 (氏名) 永井 勝浩
 配当支払開始予定日

TEL 079-223-1243
 平成25年12月10日

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	20,906	4.9	609	△0.4	706	3.9	369	9.5
25年3月期第2四半期	19,936	0.8	611	△7.7	679	△7.4	337	△0.7

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 490百万円 (50.4%) 25年3月期第2四半期 326百万円 (0.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	12.24	—
25年3月期第2四半期	11.18	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	48,266	33,346	69.1	1,105.50
25年3月期	47,819	32,934	68.8	1,091.67

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 33,328百万円 25年3月期 32,915百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
26年3月期	—	2.50	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,000	3.8	930	△8.5	1,100	△5.3	1,500	3.3	49.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	30,860,000 株	25年3月期	30,860,000 株
26年3月期2Q	712,419 株	25年3月期	708,107 株
26年3月期2Q	30,148,946 株	25年3月期2Q	30,153,716 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、政府の経済政策の効果による景気回復への期待感から株価上昇が進行し、景況感に明るい兆しが見え始めてきましたが、電気料金の値上げや原材料価格の高騰等、国内景気の先行きには慎重な見方が続いております。

このような情勢のなかで、当社グループは、企業価値増大に向け、バス事業を基盤としながら、レジャーサービス業での新規出店等を通じて安定した収益の確保に注力してまいりました。結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比970百万円(4.9%)増の20,906百万円となりましたが、営業利益は前年同期比2百万円

(△0.4%)減の609百万円となりました。経常利益につきましては貸倒引当金戻入益の計上等により前年同期比26百万円(3.9%)増の706百万円となり、四半期純利益は31百万円(9.5%)増の369百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。なお、売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。

① 自動車運送

乗合バス部門は、一般路線バスでは、定期券の販売が好調に推移したことに加え、公営バスからの受託系統が増加したこと等により前年同期に比べ増収となりました。また、高速バスは、ワイドシート車両の導入や高速バス情報サイトの立ち上げ等により、旅客サービスの向上を図りました。タクシー部門は、前年同期並の稼働で推移しました。以上の結果、売上高は前年同期比140百万円(1.6%)増の8,995百万円となりましたが、営業損益は人件費及び燃料費の増加等により前年同期に比べ23百万円(△13.3%)悪化し、200百万円の営業損失となりました。

② 車両物販・整備

車両物販部門は、車両部品及びタイヤの販売が増加したことに加え、自動車販売が好調に推移したことにより増収となりました。また、整備部門は、中古バスの改造等があった前年同期に比べ減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比150百万円(4.6%)増の3,399百万円となりましたが、営業利益は整備部門の利益率の低下等により4百万円(△2.6%)減の168百万円となりました。

③ 業務受託

車両運行管理部門は、既存顧客において一部解約はありましたものの、新規顧客の獲得等により増収となりました。経営受託部門は、指定管理施設の減少により減収となりました。介護部門は、サービス付き高齢者向け住宅「青山の郷」及び併設するデイサービス訪問介護施設「ケアサービス神姫あおやま」の稼働増により増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比38百万円(△2.4%)減の1,566百万円となりましたが、営業利益は介護部門の収支が改善したこと等により前年同期比36百万円(40.6%)増の125百万円となりました。

④ 不動産

販売部門は、分譲地販売区画数及び建物販売戸数が増加したことにより、また、建設部門は、大口工事の完成に伴う売上を計上したことにより増収となりました。賃貸部門は、既存賃貸先の賃料改定等により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比328百万円(20.2%)増の1,955百万円、営業利益は67百万円(11.5%)増の649百万円となりました。

⑤ レジャーサービス

飲食部門は、カフェ事業において平成24年10月の三ノ宮店改装効果や、JR姫路駅前ビルの再開発等の影響により集客が増えたことに加え、FC事業においてサルヴァトーレ・クオモ・アンド・パール(イタリアンレストラン)を新規出店したことにより、前年同期に比べ増収となりました。レンタル部門・T S U T A Y Aは、レンタル収入が客数の減少により減収となりました。また、遊技場部門は、両店舗のリニューアルや1円パチンコの拡大など、増客施策を実施してまいりましたが、遊技者人口の減少や近隣店との競合により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比34百万円(△0.9%)減の4,002百万円、営業利益は飲食部門における新規出店費用の発生等により前年同期に比べ85百万円(△70.9%)減の35百万円となりました。

⑥ 旅行貸切

旅行部門は、手配旅行が前年同期に比べ減収となりましたが、「東京ディズニーリゾートツアー」「クルーズツアー」等の募集型企画旅行が好調に推移したことにより増収となりました。貸切バス部門は、日車収入は増加しましたが運転士不足等による稼働減により前年同期並となりました。以上の結果、売上高は前年同期比27百万円(1.8%)増の1,588百万円となりました。営業損益は前年同期に比べ11百万円(7.3%)改善しましたが、140百万円の営業損失となりました。

⑦ その他

コンビニエンス部門は、前連結会計年度に引き続きファミリーマート2店舗を出店し、また、化粧品販売部門は、直営を含む2店舗を出店したことにより増収となりました。清掃・警備部門は、車両・建物清掃の契約が減少したこと等により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比204百万円(30.0%)増の888百万円となりましたが、営業損益は、コンビニエンス部門の店舗開設費用の発生等により前年同期に比べ26百万円(△308.5%)悪化し、34百万円の営業損失となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ446百万円増加し、48,266百万円となりました。増減の主なものは、現金及び預金の増加860百万円、有形固定資産の増加480百万円、自動車運送業における補助金未収の減少910百万円等であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ34百万円増加し、14,919百万円となりました。増減の主なものは、賞与引当金の増加290百万円、定期券等の前受金の増加263百万円、未払金の減少480百万円等であります。

純資産は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加293百万円、その他有価証券評価差額金の増加121百万円等により、前連結会計年度末に比べ412百万円増加の33,346百万円となり、自己資本比率は69.1%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は前連結会計年度末に比べ639百万円増加し、6,995百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益768百万円に非資金項目である減価償却費等を調整した結果、前年同期比502百万円(△17.7%)減の2,340百万円となりました。これは主に、法人税等の支払額の増加や未払金の減少による資金の減少等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、前年同期比105百万円(△9.5%)減の1,001百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が減少したこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、前年同期比34百万円(5.2%)増の699百万円となりました。これは主にリース債務の返済による支出が増加したこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の業績予想につきましては、平成25年11月5日に公表した予想を変更しておりません。今後の事業環境や収益見通し等を見極め、業績予想の修正の必要性があれば速やかに修正を開示いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,157	8,017
受取手形及び売掛金	2,020	2,096
未収運賃	738	600
有価証券	90	60
商品及び製品	425	440
仕掛品	43	111
分譲土地建物	822	593
原材料及び貯蔵品	91	82
その他	1,758	923
貸倒引当金	△10	△11
流動資産合計	13,136	12,915
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	23,763	23,906
減価償却累計額	△15,838	△16,027
建物及び構築物（純額）	7,924	7,879
機械装置及び工具器具備品	2,699	2,975
減価償却累計額	△2,226	△2,183
機械装置及び工具器具備品（純額）	473	791
車両運搬具	12,610	12,206
減価償却累計額	△10,677	△10,352
車両運搬具（純額）	1,933	1,853
土地	16,408	16,407
リース資産	3,822	3,752
減価償却累計額	△1,957	△1,596
リース資産（純額）	1,864	2,155
建設仮勘定	31	29
有形固定資産合計	28,636	29,116
無形固定資産		
のれん	37	31
その他	291	276
無形固定資産合計	329	307
投資その他の資産		
投資有価証券	3,366	3,597
その他	2,733	2,695
貸倒引当金	△383	△366
投資その他の資産合計	5,717	5,926
固定資産合計	34,682	35,350
資産合計	47,819	48,266

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,059	1,108
短期借入金	309	309
1年内返済予定の長期借入金	681	473
リース債務	707	756
未払金	3,120	2,639
未払法人税等	456	342
事故補償引当金	10	10
賞与引当金	885	1,175
過年度雑収計上旅行券引当金	15	15
その他	1,923	2,111
流動負債合計	9,168	8,942
固定負債		
長期借入金	1,035	989
リース債務	1,240	1,495
退職給付引当金	596	600
役員退職慰労引当金	114	116
負ののれん	2	1
その他	2,728	2,773
固定負債合計	5,716	5,976
負債合計	14,885	14,919
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	26,880	27,174
自己株式	△419	△422
株主資本合計	31,835	32,126
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,080	1,201
その他の包括利益累計額合計	1,080	1,201
少数株主持分	18	18
純資産合計	32,934	33,346
負債純資産合計	47,819	48,266

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	19,936	20,906
売上原価	14,830	15,640
売上総利益	5,106	5,265
販売費及び一般管理費	4,494	4,656
営業利益	611	609
営業外収益		
受取利息	10	11
受取配当金	23	25
持分法による投資利益	21	14
その他	53	86
営業外収益合計	108	137
営業外費用		
支払利息	13	8
固定資産除却損	11	18
その他	15	13
営業外費用合計	40	40
経常利益	679	706
特別利益		
固定資産売却益	19	27
運行補助金	37	45
車両等購入補助金	50	1
負ののれん発生益	52	—
特別利益合計	159	74
特別損失		
固定資産除却損	—	11
固定資産圧縮損	33	1
貸倒引当金繰入額	97	—
特別損失合計	130	12
税金等調整前四半期純利益	708	768
法人税等	371	399
少数株主損益調整前四半期純利益	337	369
少数株主利益又は少数株主損失(△)	0	△0
四半期純利益	337	369

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	337	369
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10	120
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	1
その他の包括利益合計	△11	121
四半期包括利益	326	490
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	325	490
少数株主に係る四半期包括利益	0	△0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	708	768
減価償却費	1,227	1,194
賞与引当金の増減額 (△は減少)	273	290
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△95	△58
受取利息及び受取配当金	△34	△36
支払利息	13	8
持分法による投資損益 (△は益)	△21	△14
有形固定資産除却損	31	35
売上債権の増減額 (△は増加)	273	62
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△11	154
未払金の増減額 (△は減少)	△336	△609
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△93	△262
その他	1,271	1,216
小計	3,207	2,749
利息及び配当金の受取額	34	36
利息の支払額	△13	△8
法人税等の支払額	△384	△437
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,843	2,340
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△9	△249
有形固定資産の取得による支出	△971	△883
その他	△126	131
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,106	△1,001
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	89	56
短期借入金の返済による支出	△89	△56
長期借入れによる収入	—	140
長期借入金の返済による支出	△275	△394
配当金の支払額	△75	△75
少数株主への配当金の支払額	△0	△0
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△333	△366
その他	19	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△665	△699
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,072	639
現金及び現金同等物の期首残高	4,944	6,355
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	50	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,066	6,995

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物 販・整備	業務受託	不動産	レジャーサ ービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	8,813	2,185	1,587	1,354	4,037	1,524	19,503	432	19,936
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	41	1,062	18	272	—	35	1,430	251	1,681
計	8,854	3,248	1,605	1,626	4,037	1,560	20,934	683	21,617
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△176	172	89	582	120	△151	636	△8	627

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	636
「その他」の区分の損失(△)	△8
セグメント間取引消去	△15
四半期連結損益計算書の営業利益	611

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「車両物販・整備」セグメントにおいて、連結子会社である神姫産業株式会社の株式を追加取得したことにより負ののれん発生益を計上しております。

当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第2四半期連結累計期間において52百万円です。

なお、この負ののれん発生益は特定の報告セグメントに係るものではないため、全社の利益として認識しております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物 販・整備	業務受託	不動産	レジャーサ ービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	8,958	2,451	1,550	1,751	4,002	1,548	20,263	643	20,906
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	37	947	16	203	—	39	1,244	245	1,489
計	8,995	3,399	1,566	1,955	4,002	1,588	21,507	888	22,396
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△200	168	125	649	35	△140	637	△34	603

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	637
「その他」の区分の損失(△)	△34
セグメント間取引消去	6
四半期連結損益計算書の営業利益	609

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。